

世界に勝つものづくりのコツ

第 6 回

中小企業の海外展開を強力にバックアップする「広域首都圏輸出製品技術支援センター (MTEP)」。
ここでは、MTEPの専門相談員がよくある質問やサポート内容、海外展開のコツをご紹介します。

海外の現場をよく知って ビジネスチャンスを広げよう

おく の かつ ゆき
奥野 克幸 専門相談員

水曜日担当
専門：中国規格、UL規格



プロフィール

約10年間、電子機器メーカーに勤務し、その後は安全規格の試験会社と安全認証会社において北米の安全規格と中国の安全規格の業務に約20年間携わる。中国の仕事に専念したいという思いで安全認証会社を退職し、現在CCC(安全/EMC認証制度)、SRRC(無線機器登録)等を中心とした中国規制対応に関する業務に就いている。

▶ 小さなことでも中小企業をサポートしたい

これまで、製造業、安全規格コンサルタント、認証機関などで経験を積んできた中で、だんだんと中小企業の方たちの役に立ちたいと思うようになりました。日本には優れた技術を持っている中小企業がたくさんありますが、小さな企業ほど製品を生み出したり、海外に売り込んだりすることが思うようにできないという現実があります。企業の規模が小さいというだけで、せっかくのビジネスチャンスを失わないよう、小さなことでもサポートしたいと思っています。

▶ 安全規格の入り口を示す

私は長年、中国と北米の安全規格についての仕事をしてきましたので、MTEPでは、これまでの経験を生かし、安全規格に関する相談を専門的に受けています。自社製品を海外市場に出すまでにはさまざまな障壁がありますが、その一つが安全規格です。

インターネットで検索すれば安全規格の条文などは簡単に見ることができますが、MTEPへ相談に来られる企業の方々のお話を聞いてみると、自社の製品を輸出するにあたってどこから手をつけて良いかよくわからずに困っている方がほとんどです。インターネットで情報を手に入れても、偏ったものもあり、ポイントがよくわからない場合が多いのです。私は、中国や北米の安全規格をクリアするための入り口の段階で、手続きの道筋や情報収集のやり方をお伝えすることで、企業の海外進出をサポートしています。

▶ 国際的な中国の安全規格

さまざまな企業の方とお話すると、中国に対して間違ったイメージをお持ちの方がたくさんいらっしゃいます。まず拳がってくるのが、中国でしか通用しない独自の規制を敷いているのではないかというイメージです。しかし、2001年にWTOへ加盟してからの中国は、国際ルールに基づいた規制をしています。安全規制・基準(規格)などのルールだけを見れば、日本よりも中国の方が国際的と言えるかもしれません。

▶ 等身大の中国を自分の目で見て欲しい

しかし、実際、日本の企業が中国に進出してビジネスをしていくのは大変です。中国は国際的なルールに基づいているとは言え、基準や規則の運用となると、担当する人によって差があり、同じ書類を出しても処理のスピードや対応の仕方が違うことがあるのです。

これまで私が相談に乗った中国関係のトラブルは、情報のやりとりの中で起こる事務処理上の問題がほとんどでした。そのような場合は、担当者が何を言わんとしているのかを正確に理解して、そのことにしっかりと対応することが求められるのです。

製品を輸出する場合、手続きを代行業者に委託する方もいるでしょう。そうする場合でも、1度は現地を訪れて、その国の実態を自分の目で見て欲しいです。自分の目で確かめることで、どのような対応をすれば良いかがわかりますし、信頼できるパートナーにも巡り会えると思います。

【中小企業の皆さまへ】

私は、お客さまのご質問にはできるだけ幅広くお答えしたいと思っています。相談の中では、具体的な規制情報や情報入手の方法、とるべき対応だけでなく、目標を達成するまでの進め方についてもお話をさせていただいています。特に中国でビジネスをするには、ルールを遵守するだけでなく、独自の運用の仕方にも順応しなければなりません。中国に何度も足を運んできた経験に基づき、現場で役立つアドバイスをさせていただければと思っています。

相談に来られる方は、自分が何に困っているのかが見えなくなっていたり、どのように質問すれば良いかわからないということもよくありますので、同じ立場で話をよく聞き、一緒になって現状や問題点を整理し、解決までの道筋を示すことを心がけています。ぜひお気軽に相談していただけたいと思います。



お問い合わせ 輸出製品技術支援センター<本部> TEL 03-5530-2126